

【全体概要】イチゴ栽培においてハダニ類の食害は株の生産能力を低下させ、収穫量を不安定化させる重要な害虫であるが、薬剤抵抗性の発達により防除は困難になってきており、薬害抵抗性の影響を受けない新たな防除技術が求められている。そこで、薬剤抵抗性の影響を受けず、発達しない新たな防除技術として、イチゴ苗への炭酸ガス高濃度施用の効果を実証し、天敵等と組み合わせたIPM(総合的病害虫管理)手法を確立し、地域への普及に取り組む。

新品種・新技術等の概要

定植前のイチゴ苗に高濃度(40～60%)炭酸ガスを24時間施用し、ハダニ類を死滅させる。

天敵資材の導入により、ハダニ類の発生を重ねて抑制し続け、イチゴ苗への食害を防ぎ、生産を安定化させる。



図 炭酸ガス処理

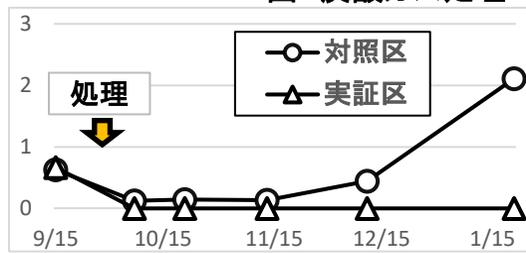
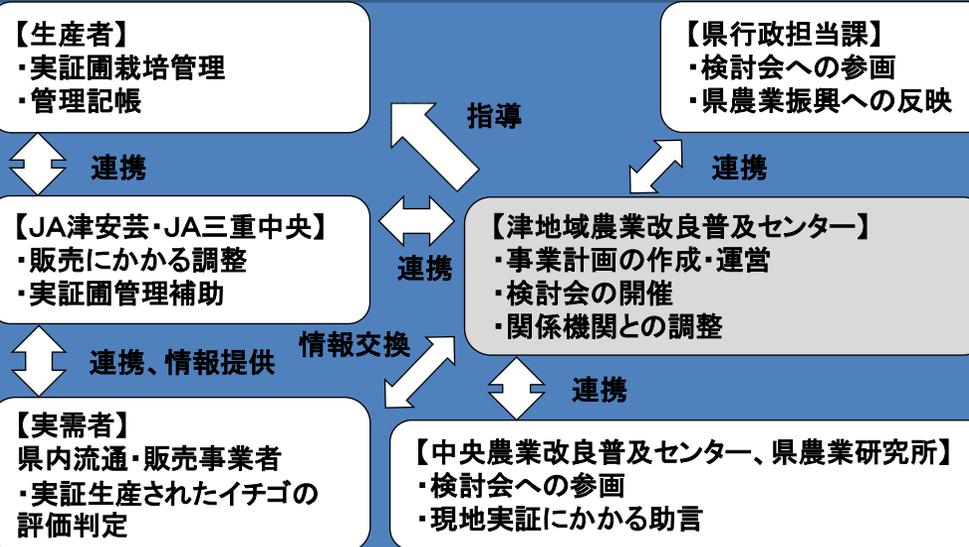


図 1葉あたりのハダニ発生数

生産安定化
化学合成農薬削減

実施体制図



主な取組内容

県内津地域において実証圃を設置し、「章姫」を対象に炭酸ガス高濃度施用によるハダニ類の防除効果を慣行防除と比較検討・実証する。

新技術導入と利用にかかるコストを試算し、慣行防除と比較した経営効果分析を実施する。

実証調査の結果をとりまとめ、新技術導入にかかる手引書(マニュアル)を作成する。

課題と今後の対応

初年度の実証調査により、炭酸ガス高濃度施用によってハダニ類の発生を処理後3か月以上、抑制し続けられる結果を得られ、有効な技術であると考えられる。今後は異なる経営体を対象に同様の実証を行い、新技術のさらなる普及を目指す。

一方で処理に要するコストは慣行防除と比較して高い。共同利用により年間の処理回数を増加させ、回数あたりの処理コストを低減するなどの方法を検討し、取組を進める。